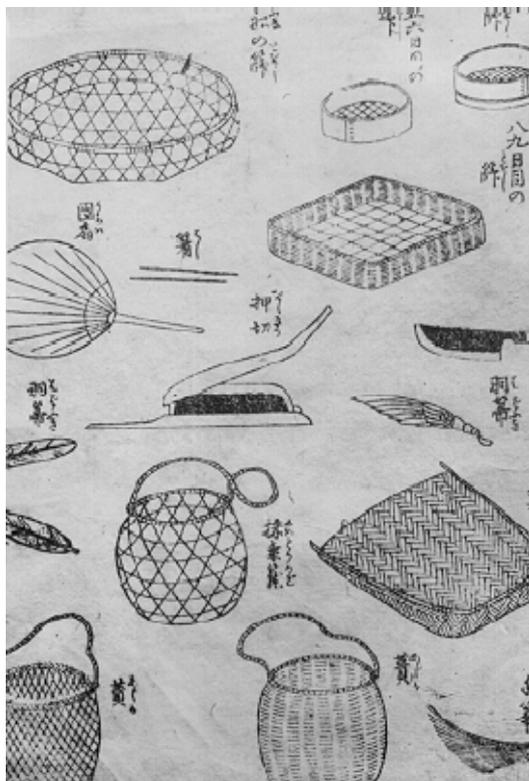


錦 絵

養蚕は、古くから農家の副業として集約的に営まれていました。

江戸時代に入ると印刷技術の進歩に伴い、養蚕書も発行されるようになりました。

右の写真は「養蚕秘録」(1803年)の表紙です。



養蚕で用いる道具を蚕具さんぐと呼んでいますが、養蚕には固有の作業が多いため、江戸時代の蚕具も現在に通じるものが数多くあります。

左に写真には、桑切包丁くわきりぼうちようや押切おしきり、採桑籠さいそうかごなど、現在まで使われている道具もあります。

江戸時代の簇器ぞくきは、手近にある樹木の葉や小枝などをそのまま利用していました。

右の写真は、小枝を束ねて簇まぶしを作っているところです。

